

自衛隊記念日観閲式における訓示

(昭和五十四年十月二十八日 陸上自衛隊朝霞訓練場)

本日、ここに、内外の来賓のご臨席を得て、自衛隊記念日観閲式を挙行するに当たり、所信の一端を申し述べる機会を得たことは、私の深く喜びとするところであります。

諸君は、自衛隊員として国の安全を保つ重要な任務を遂行するため、日夜身心の錬磨と精到な訓練にいらしてまゝであります。私は、まず諸君の平素の研鑽努力に対し深甚なる敬意を表するものであります。

最近の国際情勢は、東西間の協調と対立という微妙な基調をもっていることに変わりはないものの、インドシナ半島、中東などには、いまなお緊張が続き、国際環境は、依然として不安定で、流動的であります。

このような国際環境の中にあつて、各国は、それぞれその安全の保障に十分備えるところがなければなりません。わが国が世界の中にあつて名譽ある生存を確保するためには、内にあつては、民主制度の下で国民の活力の秩序正しい展開を図るとともに、精力的な外交を通して、国際社会における責任と役割を果たさねばならないことは勿論であります。これらの努力と並行して日米安全保障条約を誠実に履行しながら、自ら真剣で周到な防衛努力を重ねていくことが必要であります。

一九八〇年代を迎えるにあたって、政府は、引き続きこの方針を堅持して一層努力を重ねてまいりる所存であります。

自衛隊は、国の防衛の中核であることはもとよりであります。それはあくまでも国民とともに歩むものでなければなりません。諸君一人一人の行動は、国民の理解と支持を得るものでなければなりません。諸君は常に国民に対する奉仕の精神を忘れることなく、隊務の遂行に当たられることを切望いたします。

終わりに、本日の栄えある観閲式に際し、私は、諸君が決意を新たにして、厳正な規律と強固な団結の下で、崇高な任務の達成に邁進されるよう要望して、訓示とします。